

C.COM

広島の生協

平和とより良き生活のために

DEC.2017 VOL.64

広島県生活協同組合連合会
発行 2017年12月5日



50周年

特集：「50周年」

特集①：広島県生協連創立 50周年

- 「50周年記念企画」…………… 1-5
 - ・2017市民平和フォーラム
 - ・50周年記念式典・レセプション
 - ・「この世界の片隅に」上映会・トークショー

特集②ヒバクシャ国際署名 …………… 6

- ・広島県推進連絡会準備会
- 会員だより・トピックス…………… 7・8

- ・3生協協定締結式
- ・けんこうチャレンジ2017
- ・ボランティア全国フォーラム
- ・介護の日フェスタ
- ・憲法問題学習会
- ・健康まつり（広島医療生協）

特別寄稿「50周年に寄せて」…………… 9

- 広島県生協連虹友会（OB会）
- 幹事 福原陳安氏
- 事務局だより…………… 10

- ・2018年度広島県への要請
- ・消費者ネット広島

「日々のことから」…………… 11

- 俳優・声優：栩野幸知氏
- ・編集室から

【表紙写真】

広島県生活協同組合連合会 50周年企画
「2017市民平和フォーラム」で
演奏する Carp Jazz

50th Anniversary

広島県生活協同組合連合会は
今年創立50周年を迎えます



特集

広島県生活協同組合連合会創立50周年企画

『2017 市民平和フォーラム』開催



祝辞を述べる松井広島市長



開会の挨拶をする岡村会長理事

広島県生活協同組合連合会は、今年創立50周年を迎えました。広島の地において、原爆投下、終戦と戦後の復興という苦難の歴史を経験しながら、生協（生協連）は一貫して「平和とよりよい生活のために」をスローガンに50年という歴史を刻んできたのです。

この50周年を記念して、広島県生協連は、10月19日（木）、広島市中区広島県民文化センターホールにおいて、『2017 市民平和フォーラム』を開催しました。フォーラムに先立って、主催者を代表して岡村信秀会長理事が挨拶。

岡村会長理事は、50年の広島県生協連の歴史を振り返るとともに、近年の私たちを取り巻く数々の社会事情・国際情勢にふれ、「本日のフォーラムは、広島市の被爆復興・カープとお好み焼、記念講演、被爆者からのメッセージの3つのテーマを盛り込んでおり、戦争も核兵器もない平和な世界を目指し、皆さんと一緒に考えたい」との思いを述べ、挨拶を終えました。

続いて、来賓の松井一實広島市長の祝辞。松井市長は、生協のこれまでの市政に対する協力への感謝の意とこれからも協力に期待する旨をのべ、祝辞を終えました。

会の冒頭の挨拶が終わり、今日のフォーラムの主題「広島市の被爆復興・カープとお好み焼」と題して、広島市立大学特任教授國本善平氏の「何故広島にお好み焼があるのか」、続いてNHK広島放送局報道番組ディレクター鈴木昭弘氏の「何故、カープは市民に愛されるのか」の講演。続いて、広島市立大学平和研究所教授直野章子氏の記念講演、最後は被爆者からのメッセージとして広島県原爆被害者団体協議会副理事長箕牧智之氏の「私の証言」によって締めくくられました。何れの講演も開場の大勢の聴衆の心を引きつけ、会場に熱い余韻を残したようです。（文責：Y）

広島県生協連合会創立 50 周年企画 『2017 市民平和フォーラム』

お好み焼、カープ、郷土愛を通じて



NHK 広島放送局報道番組ディレクター 鈴木 昭弘 氏

「なぜ、カープは市民に愛されるのか」というフレーズで壇上に登場した鈴木氏は、司会の玉田陽子さんとのやり取りで、カープが初優勝の時は自分は6歳(?)だったと言います。

今年、リーグ2連覇を成し遂げた広島カープは、残念ながらクライマックスで横浜ベイスターズに敗れ、日本シリーズ出場はならなかったものの、広島カープファンを興奮の渦に巻き込みました。

そのカープが、なぜ、市民に愛されるのか？ 壇上に登場した鈴木氏は、映像でカープの歴史を振り返りながら、そのことの要因を示していきます。

カープが市民から愛されるのは、まず、原爆で壊滅した広島復興とともに誕生したことにあります。何もないところから立ち上がった、地方の1球団カープは、戦後の生活困窮にあえぐ人々の心の支えでもあったのです。そして、そのカープ球団の礎を築いたのが初代監督となつた石本秀一氏の存在だったと力説します。また、貧乏球団のカープを経済的に支えた、樽募金は、カープと市民の絆の象徴だとも。そして、この球団と市民との絆が、広島復興の証でもあったと話を結びました。



広島市立大学 特任教授 國本 善平 氏

「なぜ、広島にお好み焼があるのか」というタイトルを掲げて講演する國本氏は、最初に、「これは学術研究ではありません。私的・個人的な意見です」「個人のTV・CMだと思ってください」と、冒頭で会場を埋めた人たちの肩の力を抜かせ、会場をリラックスモードに。

國本氏の講演は、最初に、広島のお好み焼のルーツがネギ焼きと呼ばれる「一銭洋食」にあることを説明します。そして、会場を埋めた聴衆に、広島のお好み焼の普及が、世界で初めて原子爆弾の被害を受けた広島復興の象徴になったことを、映

像や図解、データによって紹介していきます。

國本氏は、被爆した広島市民が食糧難で飢えていたところに登場したお好み焼が、人々の飢えを満たしたことを紹介。そして、自宅の小さなスペースを活かしたお好み焼の店は、原爆や空襲で多くのものを失った人の家計を助け、ひいては広島という町の復興に陰ながら貢献したということを強調。また、お好み焼の店は、貧しい人々のコミュニティ空間でもあったことを説明し、お好み焼の普及が広島復興につながったことを改めて証明しました。

広島県生協連合会 50 周年企画 『2017 市民平和フォーラム』

ひろしまの平和の意味を考えてみました。



広島県原爆被害者団体協議会 副理事長 箕牧 智之氏

被爆者である箕牧さんは、現在、広島県原爆被害者団体協議会の副理事長という立場にありますが。まず箕牧さんは、3歳であつた原爆投下時に、広島市の郊外の自宅に、原爆の惨禍に遭われた女性が立ち寄り、母親が桃の缶詰を空けて差しあげたことを覚えているといいます。そして、箕牧さんは数日後、原爆投下直後の広島市に入り被爆しました。また、その時に目にした光景は、忘れようにも忘れられないと言います。また、箕牧さんは、戦後の自分達を含め、日本国民の貧窮生活を語り、自

分は、旋盤工として鋳物工場に就職し、貧しい暮らしから脱却するために懸命に働き、稼いだお金の最初の買い物は、お母さんへの洗濯機のプレゼントだったと言います。そして、近年、広島県原爆被害者団体協議会の副理事長としての平和運動・原水爆禁止運動についての状況を語りました。多くの被爆者の願いが、『核兵器禁止条約』の国連での採択に繋がり、運動の母体であるICANのノーベル平和賞に繋がったことを、「夢のようです」と言葉を結びました。



広島市立大学 平和研究所 教授 直野 章子氏

直野氏は、被爆者の体験に触れたことから話を始めます。そして、原爆の絵 ①横川橋の上の大勢の被爆者、②川に浮かぶ膨らんだ被爆者の死体、③本川を埋め尽くす動員学徒の負傷者・死者、④橋の上から川面に浮かぶ死体に向かって呼びかける家族、⑤橋の上の死者の山、⑥掘られた穴に放り込まれ油をかけられて火葬されるたくさん

原民喜はこれを「新地獄」と称し、直野氏は、被爆者の証言を聞きながら「何と残酷な…」と、胸をえぐられたと言います。それが、被爆者の日常の生活の今でも、時おり思い出すのだと、被爆者の持続する苦しみを語ります。とくに、原爆の絵は、こんなに酷いことがあつたことだけでなく、人間として死ねなかつた死者の思い、また、「二度とこんな思いを世界の人々にしてほしくない」という被爆者の思いを強調している。後世の私たちは、この被爆者の無念さと思いを代弁して語り継いでいく必要があると強調しました。

広島県生協連合会創立 50 周年企画・記念式典&レセプション



祝辞を述べる HJC 初田会長



祝辞を述べる松井広島市長



祝辞を述べる湯崎広島県知事



大勢の出席者と来賓を前に挨拶する岡村会長理事

記念式典&レセプション



50年のあゆみと題されるDVDも上映された



50周年を祝っての鏡開き



功労者表彰された中本氏と冨田前会長ご息女

市民平和フォーラム終了後は、会場が中区のメルパルク広島に変わり、50周年記念式典・レセプションを開催。
記念式典は、列席者92人で埋まった会場で、司会者の玉田陽



お礼の言葉を述べる高田専務理事

子さんの紹介によって、主催者を代表して岡村会長理事の挨拶で式典が始まりました。続いて、来賓を代表して湯崎英彦広島県知事、松井一實広島市長、(HJC) 広島県協同組合連絡協議会初田清会長の挨拶。引き続き、永年の功績をたたえて、広島中央保健生協初代診療所長元副理事長中本康夫氏、広島県生協連前会長理事故冨田巖氏ご息女冨田千穂、広島県生協連元副会長・虹友会会長吉京政治氏(欠席) 三方の功労者表彰があり、満場の拍手で讃えられました。
式典の締めくくりは、代表者6名による鏡開き。かけ声とともに木槌が振り下ろされ鏡が開いた後は、日本生活協同組合連合会嶋田裕之専務理事の乾杯の音頭、会場はカーブジャズの生演奏とともに一気に食事と歓談の場になった。そして、「50年のあゆみ」と題されるDVDが上映され、生協連の歴史が紹介されました。最後に、広島県生協連高田公喜専務理事のお礼のあいさつで、盛況であった式典は幕を閉じました。(文責・Y)

広島県生協連合会 50 周年企画「この世界の片隅に」上映会・トークショー



「この世界の片隅に」冒頭シーンと片淵須直監督のメッセージ



「この世界の片隅に」上映会・トークショー開催



総合司会の玉田陽子さんと榎野幸知さんのトークショー



大勢の観客で埋まった会場、映画への期待が高まる



大勢の観客で埋まった上映会場

会とあって、700名近い観客で埋め尽くされました。上映される映画のストーリーは、1944年（昭和19年）2月、広島市の江波に住む18歳のすずが、突然持ち上がった縁談によって、広島市となり、軍港の街呉へとお嫁に行くことから始まる。嫁ぎ先の新しい家族は、夫・周作、そして周作の両親と義姉・径子、姪・晴美。さすが嫁いだ昭和19年は、太



「この世界の片隅に」のワンシーン

創立50周年を迎えた広島県生協連は、11月23日（木・祝）、50周年の企画の一環として、第13回メディア芸術祭マンガ専門部門優秀賞ほか各メディアのランキングでも1位を獲得した、この史代原作「この世界の片隅に」の上映会・トークショーを開催しました。

映画上映のあとは、この映画で、方言指導と、憲兵、船頭さん、闇市のおばさんなど6役の声を担当した、呉市出身の榎野幸知さんと総合司会の玉田陽子さんのトークショー。玉田さんの軽快な問いかけに、榎野さんは、この映画の魅力と、声優としての役割の裏側を明かしてくれました。（文責・Y）

この映画は、派手さはないが一人の女性を通して、戦争の悲惨さを訴え、「平和の尊厳」と、「かけがえない日常生活」を送ることの大切さを、改めて考えさせてくれる。

太平洋戦争も末期、次第に日本の敗戦の色が濃くなり、配給物資がだんだん減っていく中でも、すずは持ち前の工夫を凝らして食卓をにぎわせ、衣服を作り直し、家族の生活を維持していく。また、そうした中で、時には好きな絵を描き、毎日の暮らしを積み重ねていくのである。

1945年（昭和20年）に入ると、呉は、空を埋め尽くすほどの艦載機による空襲で壊滅状態になり、すずが大切にしていたものが失われていき、すず自身も落とされた時限爆弾によって姪と自分の片腕を失う。そして、8月6日、広島に原爆が投下される。18歳で呉に嫁いだすずを通して、戦争の悲惨さ、原爆投下、食糧難、敗戦へと到った当時の様子が描かれている。

ヒバクシヤ国際署名



街頭署名の様子



被爆者7団体代表のみなさん



呼びかけ人(左から広島県生協連岡村会長理事、広島県被団協佐久間理事長、広島県被団協箕牧副理事長)



街頭署名の様子

ヒバクシヤ国際署名

「ヒバクシヤ国際署名広島県推進連絡会準備会」立ち上げ

広島県生協連は、「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名」(通称…ヒバクシヤ国際署名)の推進にあたり、被爆者7団体、広島YMC Aと協議を重ね、ヒバクシヤ国際署名広島県推進連絡会準備会(以下、準備会)を9月19日に立ち上げ、9月21日に、広島市政記者クラブで、準備会の記者会見を開いた。

記者会見では、この間の経緯、準備会の果たす役割、目標筆数などについて説明があり、記者からは、他団体への呼びかけ方法、準備会を設置することによる効果、現在の署名筆数や集約方法、広島県生協連や広島YMC Aのヒバクシヤ国際署名の取り組み内容などについて質問が出された。当日は、新聞社6社、テレビ局5社の取材があり、関心の高さが伺えた。今後、ヒバクシヤ国際署名広島県推進連絡会では、県民の過半数140万筆をめざす。

オールヒロシマで取り組む

記者会見終了後、準備会は、広島市内で被爆者団体の皆さんと一緒に、街頭署名に。一行は、市民にヒバクシヤ国際署名の意義を訴え、署名をお願いしました。この街頭署名には、広島平和文化センター小溝泰義理事長にも署名活動に参加いただき、参加者25人が30分で118筆の署名を集めた。

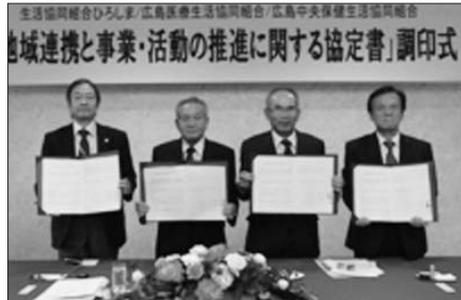
広島県内の署名筆数は、9月末現在16万2,000筆(会員生協分11万313筆)となっている。

ヒバクシヤ国際署名広島県推進連絡会準備会では、ヒバクシヤ国際署名を広めるために、著名人の呼びかけ人をお願いしている。140万筆という目標筆数は、これまでの署活動の実績からは、達成が厳しい目標であり、今後はヒバクシヤ国際署名広島県推進連絡会で呼びかけパンフレットを作り、オールヒロシマで被爆者の願いである「核兵器廃絶」への思いを一つにして、呼びかける。

(報告・広島県生協連森島哲司)

3生協協定締結式・けんこうチャレンジ2017・ボランティア全国フォーラム

3生協が事業と活動の連携推進の協定書を調印



左から、広島中央保健生協藤原秀文理事長、生協ひろしま木尚理理事長、広島医療生協青木克明理事長、広島県生協連岡村信秀会長

生協ひろしま、広島医療生協、広島中央保健生協の3生協は10月10日、地域における事業と活動の連携を本格的に推進する協定書に調印した。調印式には3生協の理事長と専務理事、及び立会人である広島県生協連の会長理事、専務理事が出席した。

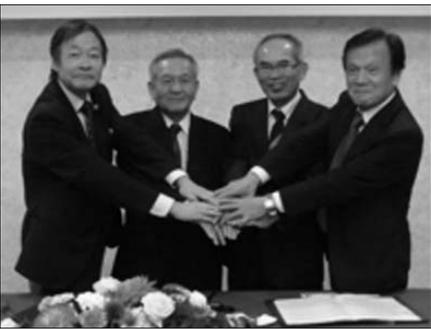
今回の協定は、2015年度から開始した3生協の「共同事業3ヶ年計画（ロードマップ）」づくりの経過を踏まえ、具体的な連携や共同事業化を継続して推進していく為のものです。

3生協共同事業化の目的としては、くらしの要求に総合的に応える生協としての発展をめざす一環として、ひとつの生協で

はできない事業課題を3生協の共同の力で実現し、組合員をはじめ地域の人々が安心して住み続けられるまちづくりに貢献することとし、以下3点を掲げています。

- ① 地域と組合員ニーズへの総合的対応力の強化を行う。
- ② そのために、相互の事業や資源を組み合わせて組合員のニーズに最もフィットする商品・サービス、情報や応対などを切れ目なく提案し提供する。
- ③ 地域支援事業への対応を軸に、地域づくり、組合員活動の面でも、3生協での組合員の共同活動、連携を進める。

（報告：広島県生協連岡崎 晃）



協力を誓う4人

8000名突破！けんこうチャレンジ2017

けんこうチャレンジ2017

今年のけんこうチャレンジは、話題の映画「この世界の片隅に」の主人公みずさん（伊原実花）のイラストの表紙を飾ることになりました。キッズ用のパンフレットを作成し小学校にアタックすることにこだわり、目標にしていた7,000名の普及を期限内に達成することにこだわり続け、ついに8,000名を超える申し込みがありました。

毎年のことでのコースに取り組もうかと悩みながら参加された方、子どもや孫と一緒に家族ぐるみで取り組まれた方、ちよい足し運動で柔軟性が増した方、すこしお生活で減塩が習慣化した方等々、いろいろな声をお寄せいただいています。さらに今年には広島県のヘルスケアポイントとも連動し、健康寿命を延ばす取り組みとして県民へ健康づくりの輪を広げる一躍を担いました。

来年は1万人の参加を目指し、継続して参加することを呼びかけるだけでなく、取り組んだ結果にもこだわるけんこうチャレンジをめざします。

（報告：広島県生協連藤代 代り）

ボランティア全国フォーラム2017開催！



シンポジウムの様子



パネリストの皆さん



分科会の様子

11月18日（土）・19日（日）、福山市でボランティア全国フォーラム2017が開催、全国から740人が集いました。

1日目は、「ボランティア活動・市民活動の展望（総論）」をテーマに、同志社大学上野谷加代子教授より基調講演がありました。続いて「ボランティア活動・市民活動の展望」と題したシンポジウムで、広島県生協連高田公喜専務理事が、生協の歴史や地域コミュニティの大切さについて報告しました。そして、地域から生協を見る必要性があり、良質の共生社会づくり・地域のセーフティネットづくり・地域社会づくりが課題であると強調。また、災害ボランティア（東日本大震災、広島土砂災害、熊本地震）の活動、地域の居場所づくりの実践事例（福山医療生協の居場所づくりからお弁当のお届け、生協ひろしまの寄ってこ〜家・ふれあい食事会、広島医療生協の子ども食堂）の報告もおこないました。

2日目は、7つの分科会が開かれ、活発な議論が行われました。

（報告：広島県生協連森島 哲司）

介護の日フェスタ・憲法問題学習会・健康まつり



協同ふれあいまつり(上)
健康まつり「フラダンス」(左)



グルメブース (飲料と野菜の販売)



フェスタ会場入口

介護の日フェスタ in 広島開催!

「11月11日は介護の日」、今年も広島県主催の「介護の日フェスタ in 広島」が11月12日(日)に開催され、7,000名を超える人が訪れました。

天候にも恵まれ、カープグッズの当たる抽選会と、巨大わたあめが話題となっているトッティキャンディーファクトリーには大行列が、グルメブースも大いに賑わいました。

昨年が続いて広島中央保健生協と広島医療生協は、健康チェックコーナーを設け、78名の来場がありました。ステージ横のブースで大音量と闘いなが

らの健康チェックとなりましたが、介護相談もあって、たいへん好評でした。

グルメブースでは広島県生協連がお茶とコーヒーの販売(あつという間に売り切れ)、ハートランドの野菜販売(石焼き芋の試食)が大盛況。

ステージでは、「介護の日」ポスター表彰式、ケアマネマイスター広島認定式も執り行われ、福祉車両の展示や、介護施設訪問バスツアーなど、介護の日フェスタならではの企画も満載でした。

(報告：広島県生協連藤代えり)

雨の中、2つの健康まつり賑やかに

広島医療生協

10月22日、共立病院開院40周年「健康まつり2017」を開催。ジュニアマリンバアンサンブルの元氣な演奏でスタートし、太極拳やフラダンス、空手の演武、風船アート、落語等多様な催しで屋内ステージは大盛り上がり。屋外はフードテントを中心に、健康チェックやスポーツ体験、煙防災体験、景品抽選会など様々な催しがあり、会場はどこも活気であふれていました。薬剤師等職員によるお仕事体験は特に盛況で、白衣を

着る体験など、楽しそうな参加者の姿が印象的でした。台風接近中にもかかわらず1,000人の来場者があり、賑やかなまつりとなりました。

10月29日にはふれあいセンター協同にて「協同ふれあいまつり」を開催。この日も台風の影響で雨模様でしたが、400人が参加。やさそばや豚汁、班サークルで作った小物、健康チェックなどのブースが多数並びまつりは大盛況でした。

(報告：広島医療生協健康まち

づくりセンター 山本・尾形

「憲法問題を考える」学習会を開催



講師の小熊部長



熱心に聞き入る会場の様子



質問する学習会参加者

広島県生協連は、9月28日(木)日本生協連政策企画部の小熊彦彦部長を講師に迎え「憲法問題を考える」学習会を開催。テーマは、「憲法をめぐる情勢と論点」学習会には、25名が参加しました。

今回の学習会では、3つのキーワードとして紹介されたのが、「立憲主義」「緊急事態条項」「加憲」。特に「緊急事態条項」が、今回の改憲の重要な問題でありながら、小熊氏はあまり知られていないことを説明。

今後に向けて大切にすることとして、小熊氏は、以下の3つを紹介しました。

1. 学習すること
2. 話し合うこと
3. 意思表示をしていくこと

会終了後、学習会参加者からは、「知らない事を知る事が、できてよかった。」「分かりやすい説明で、今後の活動にいかす。」「立憲主義の説明が、とても分かりやすかった。」という感想があった。

(報告：広島県生協連森島哲司)

50周年に寄せて

広島県生協連創立50周年に寄せて

ふれあい

教師から専務理事へ



福原 陳安

広島県生協連虹友会（OB会）幹事
（広島県生協連元常務理事・広島県学校生協元専務理事）

新しい出会い

最初は広島市東区光町の事務所に出勤しても何をして良いかさっぱりわからず、当分は借りてきた猫のような状態だったことを思い出します。専務理事という立場から、広島県生協連の理事会にも出席しました。初め

小学生の子どもたちを相手に毎日奮闘していた私に、学校生協専務理事という役がまわってきたのは、後2年で定年退職を迎えるという時でした。

それまでの私と生協のつながりと言えば、学校訪問された指定店の方から、「給料引きでいいのだから」という言葉にひかれて、商品を購入したり、職場にできた生協ひろしまの班に加入して食料品を購入したりするぐらいで、生協に関する知識はほとんどありませんでした。

の内容を理解できないこともありました。理事会に出て感じたことは、主張すべきは主張し、妥協するところは妥協するという皆さんの心の広さでした。お互いの立場を理解し、共に伸びていこうという連帯の心があつたからだろうと思います。〇〇ファーストの心では50年という歴史を刻むことは出来なかったのではないのでしょうか。



学校生協独自の組織である指定店会の皆さんとの出会いも、私の人間性を広めてくださいました。競争社会を生き抜くという厳しい世界を歩いておられる

方々と触れ合うことによつて、学校現場では学ぶことのできない貴重な経験をさせていただきました。この経験を教育に生かしたなら、それまでとは違った教師になつていたのでななどと考えたこともありました。

生協の仲間の優しさ

在任中の最大の思い出は、生協ひろしまとの事業連帯をスタートさせたことでした。学校現場に増えつつある生協ひろしまの班を維持しながら、尚且つ学校生協の経営にもプラスになるようにとの思いから、高校生協を交えた三者が、三年に及ぶ話し合いの結果を経て、連帯の調印に至ったことは忘れることができませぬ。この陰には生協ひろしまの皆さんの仲間を思う広い気持ちがあつたからこそだと感謝しています。

四年間という短い期間でしたが、この間に故中郷会長様をはじめとする多くの皆様と交わり

せていただいたことは、私の人生にとって大事な宝物となっております。皆様に通じていることは、仲間を思う優しさと厳しさではないかと考えています。役員をやめて二十年あまり経つた現在も生協に惹かれるのはなぜなのか。一口では言い表せない何かを生協が持っているからではないのでしょうか。

広島県生協連が、これまで関わつてこられた皆様の思いを受け継ぎ、連帯の輪を一層強固にし、発展し続けることを願わずにはいられません。

50th Anniversary

広島県生活協同組合連合会は今年創立50周年を迎えます

広島県への要請 消費者ネット広島

広島県への要請 (環境県民局長との懇談)

広島県生協連は、11月15日、広島県庁環境県民局長室にて広島県に対して2018年度に向けた要請を行いました。

広島県生協連は毎年、広島県に対して政策的な要請を行っています。広島県生協連が進めている課題に対して、協力を求める内容が主な要請事項です。

岡村会長の挨拶、広島県生協連出席者8名の自己紹介があり、森永環境県民局長へ要請書の受け渡しをおこないました。

要請書を受けて、森永環境県民局長より、「地域には様々な課題があるが、誰も置き去りにしない。生協連の消費者のくらしへの貢献の長年の取り組みに敬意を表する。地域包括連携協定締結の話も進んでおり、今後連携を願っています。」とご挨拶をいただき、広島県からの出席者15名の自己紹介がありま



要請書の受け渡し、右が森永局長、左が岡村会長



広島県の出席者

広島県 出席者 (15名)
森永智絵環境県民局長、鳥越直樹県民生活部長、今井洋消費生活課課長、西川貴則危機管理課主査、渡邊真功消防保安課主査、坊田祐基平和推進PT主幹、谷本綾子環境政策課主査、田坂芳枝こども家庭課主査、山根一人がん対策課主査、菊池和子食品生活衛生課主幹、木村秀則医療介護人材課参事、角田寛治地域包括ケア・高齢者支援課主幹、音成敏文地域包括ケア・高齢者支援課主幹、辰巳広司国保県単位化推進担当主査、渡辺克己消費生活課主幹

広島県生協連 出席者 (8名)
岡村信秀会長理事、高田公喜専務理事、難波隆宏専務理事(広島県学校生協専務理事)、盛谷博文専務理事(広島中央保健生協 専務理事)、岡野龍広専務理事(日立造船因島生協常勤顧問)、横山弘成専務理事(生協ひろしま専務理事)、岡勝行専務理事(全労済中四国統括本部専務執行役員)、福島守事務局長

要請を受けて森永環境県民局長より、「毎年、気づかないことも含めて問題提起していただいていることに感謝している。課題を発見し、解決に向けてご協力をお願いしたい。広島県としては消費者に対して選択できる情報を提供し、消費者の立場に立った行政を行なっていく。」とまとめのご挨拶をいただき、森

最後に、高田専務理事から、森永局長はじめ鳥越部長、今井課長、各部署から総勢15名の方にご出席いただいた丁寧な対応への感謝と、地域に適した細やかな対応等、行政と連携を強化して地域づくりをすすめる、豊かで安全・安心な地域社会の実現に向けて貢献することを述べて終了しました。

(報告) 広島県生協連 福島 守



広島県生協連の出席者

消費者ネット広島 消費者トラブルの手口を知ろう④

近年、振り込め詐欺やインターネットを悪用した詐欺などの被害が後を絶ちません。消費者トラブルは身近なところに存在しています。情報を知り、被害にあうことがないよう、また被害にあったときの対処法について、日頃から備えておきましょう。

ひとこと助言

「数億円当選した」はずが5万円の支払いに！ 迷惑メールは無視しましょう
「当選したのでお金もらえる」などの心当たりのないメールやSMSが届いても、絶対に開かず、すぐに削除してください。

★安易に連絡をしようとして、金銭を要求されたり、個人情報聞き出されたりする危険があります。メールの内容には反応しないようにしましょう。

★不安を感じたときや困ったときは、早めにお住まいの自治体の消費生活センター等にご相談ください

事例

申し込んだ覚えはないのに、数億円当選したとのメールがスマートフォンに何度も届くので、本当に当選したかもしれないと思い返信した。当選金を受

(消費者ホットライン188)

日々のことから

俳優・声優
羽野 幸知
とちの ゆきとも

30年ぶりに見たすすさんの生き
た故郷の姿は、やはり心に残る…



■プロフィール

1952年（昭和27年）5月広島県呉市生まれ。少年時代を、お好み焼きとカープの本拠地、仁義なき街ヒロシマ市で育つ。大学在学中に、東映京都作品「仁義なき戦い頂上作戦」で俳優デビュー。30代で劇用刺青とガンエフェクトコーディネーターをはじめたところ、大当たり。60歳を過ぎた今、また俳優を本格的に再開したいと考えている。「この世界の片隅に」では、方言指導と、憲兵さん、船頭さん、闇市のおばあさんなど6役の声を担当。

その間、20代は主に舞台中心

「お
還暦を過ぎて、名実共に「お
じいちゃん」の年齢となったが、

世界は、やはり私の心を打つ。

私は、広島県の呉市出身だ。1952年（昭和27年）の生まれだから、ほぼ50年を昭和の時代に生きた。父は海軍の軍人だったが、海軍兵学校出ではないのに尉官となつて、戦艦長門の作戦参謀にまで上り詰めた人だったという。それだけに、私は子供心に父を生涯尊敬し憧れてきた。一方、母の実家は、建設関係の仕事だった。そのためか、私は呉市に生まれながら、広島県の国泰寺中学・高校に入り、大学は関東の千葉工業大学建築学部を卒業した。

こう書くと、自分の人生は順風満帆のように思えるが、そうではなかった。私は、映画が好きだったこともあって、大学在学中にニューフェイスに応募し、東映京都作品「仁義なき戦い頂上作戦」で俳優としてデビュー。その後、一度大学に戻るが、同級生がシャレで応募した日活作品「嗚呼 花の応援団」のオーディションで、別のロマンポルノ作品の主役にスカウトされ、そのままのほほんの言葉通り、30年、マネージャーもタレント事務所にも縁のない、俳優人生で現在に至っている。

30代に入ると、映画の世界に活動の舞台を移す。同時期に、劇用刺青師・ガンエフェクトコーディネーターを始めたところ、当人の迷惑を超えて、そちらの方で忙しくなつてしまつた。というところ、まぐれ当たりのように第三者には思われそうだが、そうとも違う。というのは、刺青に関しても、ガンについても、とことんまで追求し勉強したことが、その世界で大いに役に立ったということだ。とにかく自分は、一つのことを突き詰める、凝り性なのだと思つた。俳優というと、一般的に、一つの個性でその俳優人生を貫く、ということをよく聞かすが、私の場合は別で、役にはこだわらないで、何でもやってみたいというところがある。「来るものは拒まず」ということだ。最近では、役者として出演するたびに、若いスタッフから、「ダメですよ、役者みたいなクサイ芝居しちゃう」と、まるで出たがり役者と思われている。



※如女小説三元禄自衛隊員
の評判が意外と良かったので、2冊目を刊行。尊敬し憧れの父が所属した海軍の極秘物語だ。

に活動、商業演劇のあらゆるジャンルに出演させてもらつた。この世界が本当に水にあつていたのでと思う。

本格的に俳優を再開したいと
ま考えている。そういつた意味
で、「この世界の片隅に」とい
う映画での声優の仕事は、自分
の一つの節目の出合いだと思え
る。この映画では、地元出身の
自分は、方言指導と、憲兵、船
頭、闇市のおばあさんなど6役
の声を担当した。男の俳優は声
が大事だと言われるが、私の声
は、若い頃喉の病気で、発声器
官の一部を手術して、「金管楽
器の音」しか出せない。それで
も、6役をこなせたのだから、
自分の中では、新しい世界を確
立したのかもしれないと思つて
いる。

【編集室から】
広島県生協連の50周年企画の一環で、「この世界の片隅に」の映画を見ることができた。改めて、戦争というものは悲惨なものだということがよくわかつた▼自分は、終戦の翌年の2月生まれなので、戦争の悲惨さを体験することとはなかつた。が、何故か幼い頃よく見た夢は、艦載機の機銃掃射から必死に逃れようとする怖いものだった。後年、母にそのことを訊ねたら、母は、「終戦の年、お前を身こもつておながが大い時に、呉市を襲つた艦載機の空襲から逃げ惑つた」と語っていた。幼い子どもが、経験してないのに、そうした怖い夢を見るといふことはどういふことなのか、今でも不思議に思ふ▼「この世界の片隅に」の映画では、原作のすばらしさ、また、原画の線の優しさと美しさを知ると同時に、街並や自然の情景描写の正確さに驚かされた。呉市の高校を卒業した私にとって、画面に出て来る人々の日常生活、街並や自然風景は、懐かしさと同時に、戦争は、それらを一瞬に奪う残酷なものだということとを改めて教えてくれた。(Y)

平和とよりよき 生活をめざして

広島県生活協同組合連合会

〒730-0802 広島市中区本川町 2-6-11
第7ウエノヤビル 5F
TEL 082-532-1300 FAX 082-232-8100
E-mail : kenren.h@proof.ocn.ne.jp
URL : http://hiroshima.kenren-coop.jp